



市町村合併問題で 単独・自立表明をした

宮本町長に聴く

Q 町長に就任しておよそ一年半が経過し、その間色々な政策の課題があつたと思いますが、どのような思いで務められてきましたか？

A 私は平成十四年の十二月に、町民の皆様からの信託を受け町長に就任をさせていただきました。ここ二、三年の地方行政については、色々な政策についての交換時期であると認識しており、今後の行政の進め方は従来のものとは違うというように思っております。その理由の一つとして、町の予算の約半分を占める地方交付税の交付額が平成十二年度をピークとして億単位での削減がされていくということがあります。今までの行政の

進め方を、町民が主役の行政に変革する必要がありますという思いがありました。経験や知識の豊富なお年寄の方々の知恵を大事にし、若い人々の活力も生かすとともに、人口の半分以上を占める女性の視点も取り入れていくという、町民の皆様方が主役になって町づくりを進めていかなければならないという思いを公約に掲げて、町長に立候補したという経緯があります。

議員であつた当時は、町民の目線に立った代弁者として町政に物申す立場でありましたが、逆の立場になつた今でも町民の目線に立つて物事を考えていかなければならないという思いは変わりありません。ただし、今ま

でのような財政的余裕がない中で、町民全ての意見を取り入れた行政の執行は難しいことですので、必要な施策の執行については予算付けをし、時代の要請に合わないものについては予算を削減しなければなりません。これからは町民の生活関連の施策に重きをおいて、キチンとした優先順位をつけた上で町政を執行していかなければならないと思っております。

Q 懸案事項の中での深地層研究施設の立地と市町村合併についての思いをお聞かせください。特に六月の定例議会でも町長は「幌延町は単独・自立で行かせていただきたい」との表明をされましたが、その決断の胸のうちの...

A 先ず、貯蔵工学センター計画以来二十数年間にわたって誘致運動をしてきた深地層研究センターの立地があります。これは昨年の七月に造成工事が着工いたしました。町内の商工業者にしても経済効果が上がってきたということでも大変喜んでるところでもあります。またこれに関連して、ノーステック財団による地圏環境研究所については、地元資本・地元企業により大規模な施設建設・賃貸を成しえたということはいまだかつてない画期的なことであつたと思っております。

また、町長就任以来、市町村合併が最も難しい決断を強いられると思っております。そこで、昨年の二月から三月、また九月から十月にかけても町政懇談会を開催して、町の財政シミュレーションをもとに町民の皆様にご説明をさせていただきました。それとは別に、町の商工業者や農協の理事

会などにも出向いて説明をさせていただき、それぞれ意見などを聞かせていただきました。また、今年の二月には西天北四町の任意合併協議会に参画して具体的な協議を続けてまいりました。五回目の協議会において解散という形になってしまいましたが、当協議会において作成された資料をもとに町民の皆様にも市町村合併懇談会として説明させていただきました。全部で六ヶ所、約二百人の参加をいただいた中で、単独・自立で行つてほしいという意見が圧倒的に多かつたわけがあります。

「少々の事は我慢するかから幌延町という名前を残してほしい」「他の町にないサイクル機構等の明るい材料があるので自立でいってほしい」「同じ苦勞をするのであれば、小さな町なりのやり方があるのではないか」というような意見をいただき、町民の意見を尊重しようと思断しました。財政推